

町と相撲の歴史



日本の伝統的な武道・スポーツである相撲。その歴史は非常に古く、全国各地の神事や祭事などで行われた他、(公財)日本相撲協会が主催する大相撲により、国民に親しまれてきました。

町では、昭和46年の熊本空港の開港を機に、周辺4カ町村の親睦を深める相撲大会の場として、高遊原相撲場を整備。昭和50年頃、町相撲連盟が発足し、4カ町村共催の高遊原相撲大会が始まりました。本紙第13号(昭和52(1977)年11月1日発行)では、第3回高遊原相撲大会に136人が参加し、益城町が総合優勝を果たしたと記されています。

なお、今回の教室の会場となった町民グラウンド相撲場の完成は、本紙第2号(昭和51(1976)年6月20日発行)で取り上げており、土俵開きの式典と小・中学生による大会が開催されたことが分かります。

現在、高遊原相撲大会は、町民グラウンド相撲場に場所を移して開催されていますが、令和元(2019)年の第41回大会を最後に、コロナ禍により、開催が見送られています。

今年、久しぶりの開催を目指しましたが、参加者の減少が懸念されるため、新たな試みとして力士と共に相撲を楽しむ教室が開催されました。

上/本紙第2号の記事
中/本紙第13号の記事
下/肥後ノ海さんと肥後ノ丸さんも高遊原相撲大会出場者。肥後ノ海さんは、第34回大会小学4年以下の部優勝!

Interview



町相撲連盟 第5代会長
まるやまたかすけ
丸山高幸さん(北向)

何も道具を持たず、体一つでぶつかり合う競技はなかなかないので、子どもたちにとってよい体験になるのではと思います。空港周辺4カ町村共催の教室というかたちでの開催を町に提案しました。開催に当たり、木瀬師匠には「子どもたちの心の復興に役立つのであれば」と木瀬部屋力士の教室への参加を快諾いただき、今回の教室が実現しました。

これからも相撲に関心を持ってもらう場として4カ町村共催の教室を続けるとともに、町連盟主催で競技として相撲をしている小・中学生を集めた県大会や九州大会を開催できればと考えています。



抽選でサイン色紙プレゼント!

読者の中から2人に宇良関と金峰山関のサイン色紙をプレゼントします。ぜひご応募ください。

応募期限 令和5年12月25日(月)必着

応募方法 はがきに氏名、住所、電話番号、広報紙への意見・感想、「力士のサイン色紙希望」と記入し郵送するか、申し込みフォームで応募してください。



- ▶応募は1世帯1枚までとします。
- ▶力士のサインは選ばません。応募多数の場合は抽選とし、当選者発表は色紙の発送もってかえさせていただきます。

問い合わせ・応募先 〒861-2295(住所記載不要)
益城町役場企画財政課広報係 ☎ 286-3223